

幸せも不幸せも考え方一つだ。
どのような境遇にあっても、
そこに楽しみを見つければ、
幸福になれるのである。

楽しきと思おうが
楽しき本なり

もと

松平 定信

江戸時代中期の大名、老中。
陸奥白河藩第三代藩主。天明の大飢
饉の際に率先して儉約に努め、貧民
救済を行ったので、白河藩では餓死
者が出なかつたとも言われている。
手腕を買われて、老中となり、寛政
の改革を主導した。

「御朱印」の知識の誘ひ

参拝の証として頂く「御朱印」。
その起源は、奈良・平安の昔、神社
仏閣に書写した経典を奉納した際
に戴いた「納経受取（のうきよう
うけとり）の書付」ではないかと
言われております。やがて、納経
をせず参拝だけした場合にも証明
を書いてもらうように変化したも
のと考えられております。
敬神の思いの結晶ともいえる御朱
印帳は、昔も今も、まるで参拝し
た時の感動を永久保存してくれる
かのような掛け替えのない存在と
いえましょう。

まつだいら さだのぶ
松平 定信
裏面もご覧ください。

神社は心のふるさと
未来に受け継ごう「美しい国ぶり」

